

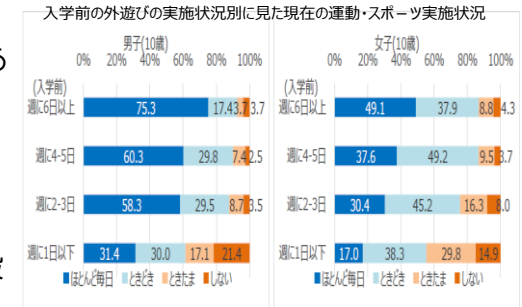
## 背景・課題

体力は人間の活動の源であり、「生きる力」を支える重要な要素である。英国のリンダ・グラットン教授※によれば、現在の日本の子供の半数が100歳以上まで生きており、将来を担う子供の体力とそれを培う運動習慣の形成は特に重要である。

また、国民の体力運動能力の調査では、成人のスポーツ習慣と小学生時に運動を楽しみと感じていたことには強い相関が認められ、小学生時に運動を楽しみと感じた子供については、未就学時の外遊び回数が多いことが指摘されている。このことから、未就学を含む小学生までの運動習慣作りは、子供の体力向上はもとより、成人以降のスポーツ習慣や高齢期以降の健康の保持にも大きな影響を及ぼすものである。

このような状況を踏まえ、家庭や学校をはじめ、地域において、未就学の幼児から小学校の児童までを対象に、その発達段階に応じた運動習慣の形成に取り組むことにより、子供の体力向上を目指すものである。

※人生100年時代構想会議構成員



体力・運動能力調査 (令和元年度)

## 事業内容

幼児期及び小学校児童を対象とし、発達段階に応じて、自治体の幼児に関わる関連部署や域内の関係団体、小学校が連携し、子供の望ましい運動習慣形成に取り組む。

### ① 幼児期からの運動遊び普及事業の実施

- 保護者・保育者等を対象とした子供の運動遊びの重要性に関する普及・啓発及び運動遊びを経験できる環境の充実について継続的に実施できるよう検証・検討を行う。

※自治体において、スポーツ、教育、保育担当部署等で連携すること

- 件数：全国で8箇所程度 < 3年継続 >

### ② 保護者等の運動遊びに関する行動変容調査の実施等

- 子供の体力・運動能力と、学校外における生活習慣（運動、学習、スクリーンタイム、食事、睡眠等）の関係について実態を把握するため、保護者等に対する調査を実施

● 調査に関する運営（企画、実施支援）及び調査の分析等の検証

※普及事業に参加以外の保護者等を対象とした全国調査も実施する

※保護者向けの情報提供内容・方法も検討

- 件数：1箇所（大学等の研究機関） < 3年継続 >

